

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2023年第40週 (10月2～8日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2023年第1週から)

疾患名	報告数	累積
[1類]		
(報告なし)		
[2類]		
結核	260	10809
[3類]		
コレラ		2
細菌性赤痢	2	30
腸管出血性大腸菌感染症	73	2910
腸チフス	1	32
パラチフス		8
[4類]		
E型肝炎	8	430
A型肝炎		38
エキノкокクス症		11
エムボックス ¹⁾	2	201
オウム病		8
回帰熱		21
コクシジオイデス症		2
ジカウイルス感染症	1	1
重症熱性血小板減少症候群	5	122
チクングニア熱		4
つつが虫病	1	118
デング熱	4	118
日本紅斑熱	27	373
日本脳炎		2
ブルセラ症		1
マラリア	1	22
ライム病		26
レジオネラ症	56	1753
レプトスピラ症	1	33
[5類]		
アメーバ赤痢	7	395
ウイルス性肝炎 ²⁾	1	192
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ³⁾	34	1538
急性弛緩性麻痺 ⁴⁾	1	46
急性脳炎 ⁵⁾	10	430
クリプトスポリジウム症	1	9
クロイツフェルト・ヤコブ病	1	121
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	10	631
後天性免疫不全症候群	5	709
ジアルジア症		34
侵襲性インフルエンザ菌感染症	9	432
侵襲性髄膜炎菌感染症		13
侵襲性肺炎球菌感染症	15	1332
水痘(入院例に限る)	6	286
梅毒	162	11546
播種性クリプトкокクス症	1	130
破傷風	3	81
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	3	96
百日咳	26	728
風しん		11
麻疹		25
薬剤耐性アシネトバクター感染症		11

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁶⁾	49212	9.99
新型コロナウイルス感染症	25630	5.20
RSウイルス感染症	575	0.18
咽頭結膜熱	5854	1.87
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6316	2.01
感染性胃腸炎	8926	2.85
水痘	301	0.10
手足口病	4979	1.59
伝染性紅斑	58	0.02
突発性発しん	796	0.25
ヘルパンギーナ	1667	0.53
流行性耳下腺炎	140	0.04
急性出血性結膜炎	13	0.02
流行性角結膜炎	609	0.89
細菌性髄膜炎 ⁷⁾	9	0.02
無菌性髄膜炎	24	0.05
マイコプラズマ肺炎	28	0.06
クラミジア肺炎 ⁸⁾	1	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス) ⁹⁾	3	0.01
インフルエンザ(入院患者)	258	—
新型コロナウイルス感染症(入院患者)	1431	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) オウム病を除く。9) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	▲	沖縄、千葉、山口
新型コロナウイルス感染症	▼	北海道、沖縄、石川
RSウイルス感染症	▼	山形、福島、岩手
咽頭結膜熱	▲	福岡、沖縄、大阪
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▲	鳥取、山口、奈良
感染性胃腸炎	▼	大分、香川、宮崎
手足口病	▼	新潟、佐賀、福井
伝染性紅斑	▲	静岡、山形
ヘルパンギーナ	▼	山形、佐賀、高知
流行性耳下腺炎	▼	福井、群馬、宮崎、鹿児島
マイコプラズマ肺炎	▲	青森、埼玉、新潟

◆新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)

第40週の定点当たり報告数は5.20(報告数2万5630人)で、前週より減少した。都道府県別の定点当たり報告数は3.58～8.19で、最も高いのは北海道だった。基幹定点から報告された全国の新規入院患者数は1431人で、前週と比較して580人減少している。